

きいて・めもして・こたえよう

にんち 認知しょうサポーター こうざ 講座

なまえ
名前

聞くめあて にんち 認知しょうの「しょうじょう（理解）」と、「せつ かた 接し方」を、わけて
メモしましょう。

ことば おとさない言葉：しょうじょうの理解・接し方の三つ

ほうそう 放送が終わったら、ひらいて問題に答えましょう。

(1) 認知しょうとは、どこのはたらきが少しずつおとろえる病気だと言っていましたか。

(2) 認知しょうのしょうじょうの例として、話されたものはどれですか。○をつけましょう。

ア 同じことを何度も聞く

イ 走るのが速くなる

ウ 目がよく見えるようになる

(3) 講師が「いちばん不安なのは」だれだと話していましたか。

(4) 認知しょうの人への「せつ かた 接し方」として、話された三つにあてはまらないものはどれですか。○をつけましょう。

ア 早くするようにいそがせる

イ おどろかせない

ウ 心をきずつけない

(5) まちでこまっているお年寄りに出会ったら、あなたはどんな声かけをしたいですか。理由とともに書きましょう。

やまおり

すすめ方

- ① 中央の点線で山折りにして、「めも」の面だけを表にする（問題を先に見せない）。
- ② この放送文を先生が読む（または用意した音声を流す）。読む回数：1回。聞きながらメモを取らせる。
- ③ 放送が終わったらプリントを開き、メモを見ながら問題に答えさせる。

放送文

今日は、「認知しょうサポーター講座」です。認知しょうの、ある人の、しょうじょうを、正しく、理解し、どう、接すれば、よいかを、いっしょに、学びましょう。

「認知しょうとは、脳の、はたらきが、少しずつ、おとろえる、病気です」と、講師は、話します。「たとえば、さっき、聞いた、ことが、思い出せなく、なったり、よく、知っている、道に、まよったり、します。だれでも、年を、とれば、なる、かのう性が、あり、けっして、特別な、ことでは、ありません。」

「しょうじょうの、例を、あげましょう」と、講師は、続けます。「同じことを、何度も、聞く。約束を、忘れて、しまう。今が、いつか、分からなく、なる。そして、いちばん、不安なのは、本人だ、という、ことを、忘れないで、ください。」

「では、どう、接すれば、よいのでしょうか」と、講師は、たずねました。「大切なのは、三つ。一つ、おどろかせない。二つ、いそがせない。三つ、心を、きずつけない。『さっきも、言ったでしょ』ではなく、『だいじょうぶですよ』と、やさしく、声を、かけて、ください。」

「みなさんは、もう、りっぱな、サポーターです」と、講師は、ほほえみました。「まちで、こまって、いる、お年寄りを、見かけたら、勇気を、出して、声を、かけて、ください。みんなで、支え合う、まちを、つくりましょう。」

メモのれい

認知しょうサポーター講座（理解・接し方）

理解：脳のはたらきが少しずつおとろえる病気／だれでも年をとればなるかのう性／特別なことではない

しょうじょう例：同じことを何度も聞く・約束を忘れる・今がいつか分からない／いちばん不安なのは本人

接し方の三つ：①おどろかせない②いそがせない③心をきずつけない
（『だいじょうぶですよ』とやさしく）

こたえと かいせつ

(1) 脳（のはたらき）

「脳の、はたらきが、少しずつ、おとろえる、病気です」と言っていました。

(2) ア（同じことを何度も聞く）

「同じことを、何度も、聞く。約束を、忘れる。今がいつか分からなくなる」などが例です。

(3) 本人

「いちばん、不安なのは、本人だ」と話していました。

(4) ア（早くするようにいそがせる）

接し方の三つは「おどろかせない・いそがせない・心をきずつけない」です。アはその反対です。

(5) (例)「どうしましたか」とゆっくり声をかけたい。おどろかせず、安心してもらいたいからだ。

声かけの内容と理由が書けていれば正解です。三つの接し方を生かしていればさらによいです。